

令和6年度学校評価自己評価シート【最終】

三次市立河内小学校

【経営理念】

ミッション（使命）：コミュニティ・スクールを核に，郷土愛・地域参画・地域貢献を意識した「資質・能力」の育成を図り“魅力ある学校づくり”を実現させ，

地域（保護者）の期待に応える。学校教育目標：一人一人の個性を輝かせ，主体的に学ぶ子供の育成 ～ つながる・挑む・考動する ～

	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標 （目標値）	2月	評価	結果と課題の説明	改善計画
				達成値			
確かな学力の育成	基礎学力の向上	ICTの活用，個別学習の取組，各種調査の分析をもとに，単元テスト，公的学力検査における正答率向上を図る。 各学級の学習課題に応じた課題に取り組ませ活用問題の正答率向上を図る。	単元テスト平均値 80%以上達成の児童 80%以上 公的学力検査における活用力全科目全国平均以上	87% 56.5%	A D	月曜日と水曜日に全校学習タイム「ぐんぐんタイム」を設けた。複数の職員で指導にあたることで，個別の課題を把握し，個に合った支援をすることができている。また3学期からは地域ボランティアに来ていただき，週4日，放課後30分間の時間を使って低学年を中心に「放課後ぐんぐん学習」を実施している。主には計算カードの学習に関わっていたいている。 【単元末テストの結果】 単元末テスト平均値が80%以上達成の児童が87% 【三次市学力到達度検査の結果】（3～6年生の活用問題） 中学年は4教科：8項目中8項目全て全国平均以上となった。達成率100% 高学年は4教科：8項目中1項目しか全国平均以上とならなかった。達成率13% 全体的に基礎的・基本的な学力は定着してきているが，活用力や読解力については課題が残る。	一人一人の児童の実態を丁寧に見取り，それに合った個別な支援をしていく。そのためにICTを積極的・効果的に活用していく。 来年度も複数職員で子ども達の学習を見ていく時間を設定するとともに，地域ボランティアの方々による「放課後ぐんぐん学習」も継続して行い，個の課題に応じた支援を継続して行い基礎基本の学力を確実につけていく。 学ぶことに興味や関心をもち，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげていく。学習者が主体的に自らの学習方法についてデザインをしていく力を身に付けさせていく。 読解力や語彙力を身に付けさせるために，読書に興味や関心をもつような機会を設定する。
	育成すべき資質・能力の向上 「主体性」「協調性」「コミュニケーション能力」	生活科・総合的な学習の時間を核として，「主体性」「協調性」「コミュニケーション能力」の育成に重点を置き，深い学びを引き出す授業づくりに取り組む。 表現力を高めるために，説明する機会を意識した学習を行い，発信力を身に付ける。	「資質・能力」児童意識調査，外部アンケートによる肯定的評価 80%以上 学習したことを発表する場を各学年2回以上設定（参観日，発表朝会，ICTの活用等）	98.1%	A	【児童アンケート】 ①授業中，友達の話をわかろうとして聞いていますか 友達と話し合う時，自分の考えと比べながら，友達の話を聞いていますか 肯定的回答…100% ②授業中，友達がわかるように話をしようとしていますか。 友達と話し合う時，自分の考えを言葉で伝えることができていますか。 肯定的回答…100% 【参観日アンケート（11名回答）】 ①考えや意見を伝える 肯定的評価…100% ②発表の声 肯定的評価…90.9% ③聞く態度 肯定的評価…100% 総合的な学習の時間を中心として，地域課題解決と地域貢献をテーマにした「探究学習」を行ってきた。地域のために自分たちが考えた活動に取り組むことを通して3つの資質・能力は伸びている。	育てたい資質・能力について，学校と地域が常に連携・共有して取組を進めていくことで，より資質能力の向上が図れると思われるので，学校と地域との連携や対話を大切にしていく。 「みんなちがってみんないい」の精神を大切にし，安心して「分からないから教えて，助けて」と言える集団作りをしていく。 子ども同士の協働，教職員や地域の方々との対話を取り入れた学習や活動を実施することを通して，自己の考えを広げたり深めたりする場を意図的に取り入れる。
豊かな心の育成	自己効力感の向上	キャリア教育の視点をもった取組を通して，人とつながり，社会参画を通して自己肯定感の向上を図る。 作品応募，各種大会参加を積極的に行い，挑戦することで自己効力感を身に付ける。	児童アンケートの「自己効力感」「自己肯定感」に関する項目において，肯定的な回答をした児童の割合 90%以上	80%	B	音楽交流会，ふれ愛まつり，校内マラソン大会，なわとび大会など，15人の児童の個性が発揮できる場面を設定し，相互評価を通して自己肯定感の向上を図った。 「自分には，よいところがあると思いますか」という項目において，児童の肯定的な回答は80%であった。否定的な回答をしている児童は20%であり，中間と変わらなかったことが課題である。	来年度も，学校行事や陸上競技大会，音楽交流会などの各種大会や作品応募などの機会を通して，一人一人の個性が発揮できる場面を設定する。表彰朝会などの機会でも，結果だけでなく，頑張ってきた過程を紹介し，肯定的評価をしていく。 指導者からの評価だけでなく，児童同士の相互評価も取り入れ，自分のよさや可能性を自己認識できるようにしていく。
	自己指導能力の育成	児童会活動を活性化し，学校生活における課題発見・解決力を身に付ける。 「なりたい自分」を設定することで，目標を意識して生活し，成長を実感できるようにする。	児童アンケートの「自己指導能力」に関する項目において，肯定的な回答をした児童の割合 90%以上	100%	A	「校内マラソン大会」や「なわとび大会」などいろいろな学習において，「なりたい自分」と題した個人目標を設定して取り組ませた。常に目標を意識して取り組ませることで，自分の頑張りが成長を実感できたと思われる。 児童アンケートにおいて『「なりたい自分」に向けて，目標を決め，一生懸命がんばっていますか」という項目において，肯定的な回答が100%であった。	「なりたい自分」に向けて児童が目標を設定し取り組んでいくことができるよう，各教科や各行事のカリキュラムマネジメントを行い，意図的・計画的に取り組めるようにしていく。

健やかな体の育成	基本的生活習慣の充実	・中学校と連携し、テレビ・ゲーム等の視聴時間減少を目指す。 ・栄養教諭と連携した食育指導を行い食の大切さへの理解を図る。	・3点固定が定着した児童の割合 80%以上 ・メディアコントロール実施による達成率 80%以上	80%	B	・2回目の生活づくり週間のアンケートの結果について、目標が達成した児童は、就寝時刻 80%（9時～10 時まで就寝した割合）、起床時刻 74%（6時～7 時まで起床した割合）、朝ごはん 86%の結果となった。また、アンケートの結果について、保健だよりで保護者に周知できたことで、継続的に家庭においても協力的に取り組むことができた。 ・2月の PTA 研修で、講師を招聘して、「睡眠のメカニズムや睡眠時間と学力・体力に関わって」の講話をしていただき、睡眠の重要性について親子で学習することができた。学習後の感想も自分の生活と結びつけて考えた感想が多く見られた。	○来年度に向けて、みよし学園健康教育部会で、生活リズムアンケートの結果について分析をし、改善に向けて学校としてどの様に啓発・取り組みをしていくのかについて検討をする。検討を行った結果から、健康朝会などで、実態に応じた指導を行う。 ○2月の PTA 研修会での学びを生かして、自分の生活を見つめ、よいところは続け、改善すべきところは家族と相談して改善できるよう促していく。
	体力・運動能力の向上	・体育科授業の工夫と、業間体育の継続により運動能力向上を図る。 ・新体力テストにおいて課題のある2項目をターゲットとした重点的な取組を通して、体力の向上を図る。	・体力・運動能力調査において、県平均を上回った児童の割合 80%以上	86.6%	A	・新体力テストにおいて、他の項目よりも低い傾向の2項目：握力・長座体前屈について体育科授業で意識して取り組んだ。特に、長座体前屈では、5名の児童が9 cm以上記録が向上した。握力については、体育科授業での鉄棒運動以外にも3学期に全校で業間なわとびに取り組んだ。また、長座体前屈については年間を通して準備運動でストレッチを行ったり、マット運動で意識して取り組んだりした。2月の段階で県平均を上回った児童は13名であった。 ・全校での取組が不十分であり、各担任に頼るところが大きくなってしまった。	○来年度の新体力テストに向けて、自分の体力について認識させ、目標をもって練習に取り組んでいくことができるように進めていく。 ○全校での取組となるように、年間を通して計画的に業間運動を実施する。
信頼される学校	学校の説明責任の遂行と情報の開示	・マスメディアの活用や学校便り・小中一貫だより、コミュニティ・スクール広報誌等の定期発行、アンケートによる学校満足度の向上を図る。	・学校評価アンケートの情報公開における肯定的評価 90%以上 ・HPや通信等でC.Sに係る取組を毎月発信	95.2%	A	・学校での取組について保護者や地域の方々に理解し、支援していただけるよう、学校行事や地域行事などについて「学校だより」「ともえ 2040」などで発信した。 ・各学級の様子について、学級通信等で保護者の方に伝える機会が少なかった。	○学校での学習活動や子ども達の様子について、学級通信を活用し、定期的に発信していく。また、ホームページの充実を図り、河内地域以外の方々に広く河内小学校の特色や取組を知っていただけるようにする。
	地域から学校への満足度・信頼度の向上	・「みよし学園コミュニティ・スクール」を核に、地域とビジョンを共有し「育みたい資質・能力」の育成を図る。	・学校への保護者、地域アンケートの肯定的評価 90%以上 ・保護者、地域関係者の学校支援活動参加数	100%	A	・コミュニティ・スクールがスタートして3年目。様々な行事や総合的な学習の時間の授業などで、子ども達と保護者・地域が協働的に学び、活動する機会がますます充実してきた。 ・地域課題解決をテーマにした「探究学習」は地域の方々との連携を密にとりながら進めており、学校と地域との関係がさらに深まってきている。 【学校への保護者、地域アンケートの肯定的評価 100%】	○来年度も引き続き「地域の課題解決」「地域貢献」をテーマにした「探究学習」に取り組んでいく。協力していただく保護者・地域の方に、その学習活動で児童に育みたい資質・能力を丁寧に説明し、活動の目的を共有することで、目標達成に向けた活動や指導の充実を図っていく。

※学校評価者指標 （一つに○） A：たいへんよい B：概ねよい C：改善の必要がある